



平成 19 年 10 月 23 日

各 位

会社名 タカラバイオ株式会社
 (コード番号 4974 東証マザーズ)
 本社所在地 滋賀県大津市瀬田三丁目 4 番 1 号
 代表者 代表取締役社長 加藤 郁之進
 専務取締役 木村 睦
 問合せ先
 T E L (0 7 7) 5 4 3 - 7 2 1 2
 U R L <http://www.takara-bio.co.jp/>
 親会社等の名称 宝ホールディングス株式会社
 代表者 代表取締役社長 大宮 久
 (コード番号 2531 東証、大証第 1 部)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 9 月中間期(平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日)の連結及び単体業績予想(平成 19 年 5 月 15 日公表、その後単体のみ平成 19 年 5 月 30 日に修正)を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

なお、平成 20 年 3 月期の連結及び単体業績予想につきましては現在精査中であり、平成 19 年 11 月 14 日に予定しております中間期の決算発表において公表する予定であります。

記

1. 平成 19 年 9 月中間期 業績予想数値の修正(平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日)

(1) 連結 (百万円未満切捨)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	9,870	270	210	330
今回修正予想(B)	9,403	232	351	6
増減額(B-A)	467	503	561	336
増減率(%)	4.7	-	-	-
前期実績(平成 18 年 9 月中間期)	9,807	710	651	344

(2) 単体 (百万円未満切捨)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	6,263	447	254	538
今回修正予想(B)	5,984	161	121	811
増減額(B-A)	278	286	375	273
増減率(%)	4.4	-	-	50.7
前期実績(平成 18 年 9 月中間期)	6,893	517	304	69

(注) 業績予想につきましては、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであります。従いまして、平成 19 年 11 月 14 日発表予定の業績は、これらの数値と異なる場合があります。

2. 修正の理由

【連結業績】

当中間期の売上高は、研究用試薬および健康食品が計画に対して未達となり、9,403百万円と計画比467百万円（4.7%）の未達（前期比404百万円（4.1%）の減収）となる見込みであります。

利益面では、売上総利益が、売上高の計画未達に伴い計画比167百万円（3.4%）の未達となるものの、販売費及び一般管理費は、効果・効率的な費用投下に努めたことに加え、研究開発費等の計上時期が下半期へずれたこと等もあり、計画比670百万円（12.9%）の減少となる見込みであります。

この結果、営業利益は232百万円と計画比503百万円の増益（前期比943百万円の増益）となり、経常利益は351百万円と計画比561百万円の増益（前期比1,003百万円の増益）となる見込みであります。

特別損益では、係争和解費用を中心に特別損失1,212百万円が発生いたしましたものの、特別利益として投資有価証券売却益等719百万円を計上した結果、当期純利益は6百万円と計画比336百万円の増益（前期比350百万円の増益）となる見込みであります。

以上のとおり、当中間期は、売上高こそ計画比未達・前期比減収に終わるものの、中間期としては会社設立後初めて、営業利益・経常利益・当期純利益の黒字化を果たせる見込みとなりました。

【単体業績】

当中間期の売上高は5,984百万円と計画比278百万円（4.4%）の未達（前期比908百万円（13.2%）の減収）となる見込みであります。利益面では、売上総利益が売上高の計画未達に伴い計画比で150百万円（5.6%）の未達となるものの、販売費及び一般管理費は、効果・効率的な費用投下に努めたことに加え、研究開発費等の計上時期が下半期へずれたこと等もあり計画比436百万円の減少となる見込みであります。

この結果、営業利益は161百万円の損失と計画比286百万円の増益（前期比356百万円の増益）となる見込みであり、経常利益は121百万円と計画比375百万円の増益（前期比426百万円の増益）となる見込みであります。

特別利益に投資有価証券売却益等713百万円等を計上した結果、当期純利益は811百万円と計画比273百万円の増益（前期比881百万円の増益）となる見込みであります。

以上のことから、中間期の業績予想を修正するものであります。

以 上

当資料取り扱い上の注意点

当資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。